

○崩壊→ポケット埋没→フェンスを乗り越えて落下. 柵高の決定はこのような点を踏まえる必要がある.



○抜けだし (流れ盤状の節理に規制され転落. 防護網を突き破る)



○トップリング



○バックリング



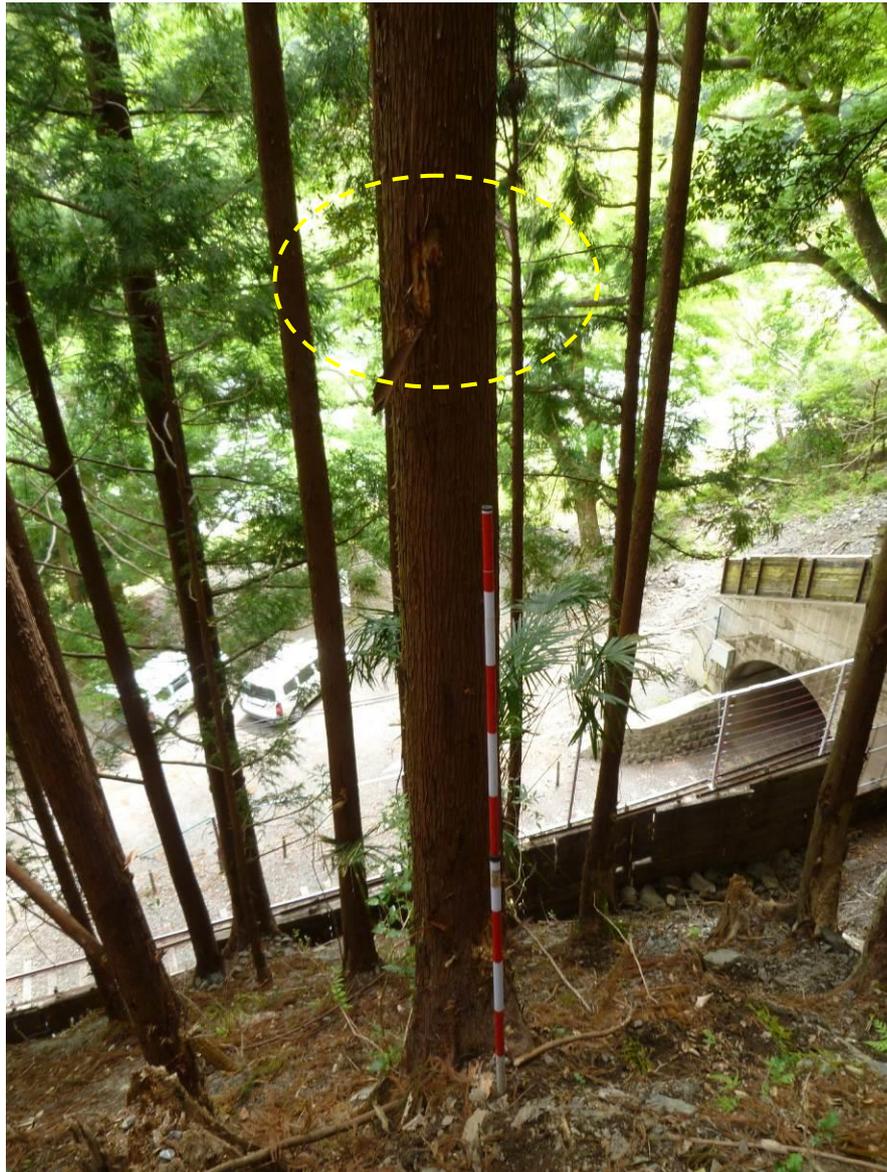
○脚部浸食（沈下）による不安定化



○落石による



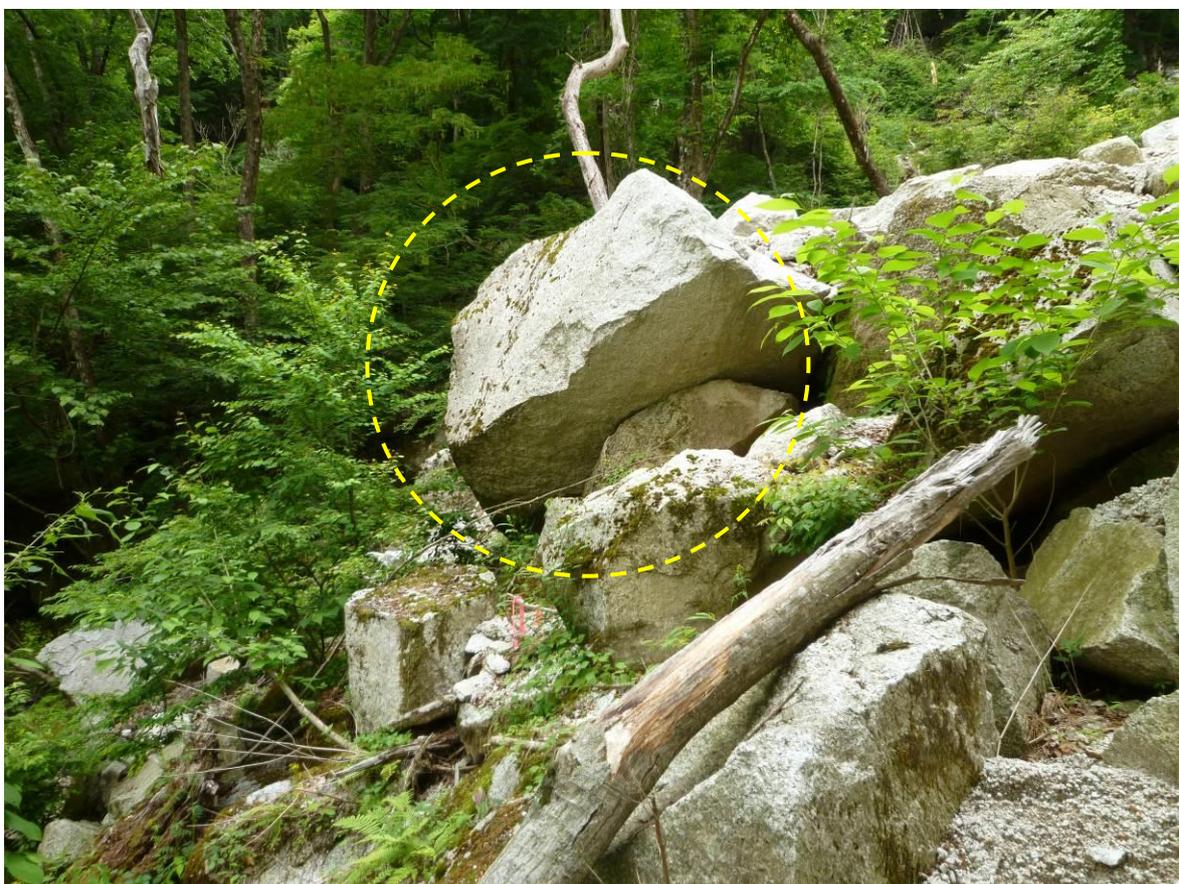
○落石の跳躍高



○落石の停止状況（傾斜 20° 程度）



…急崖直前で停止（新規崖錐上）



…旧転石に衝突し、停止（傾斜 30~40°）



○鳥取西部地震の記録

…遷急点からの崩壊



…崩落岩塊の広がり（扇状内角）は45°程度



…道路を越えて落下したものは少ない。



…高い位置の電線が破断

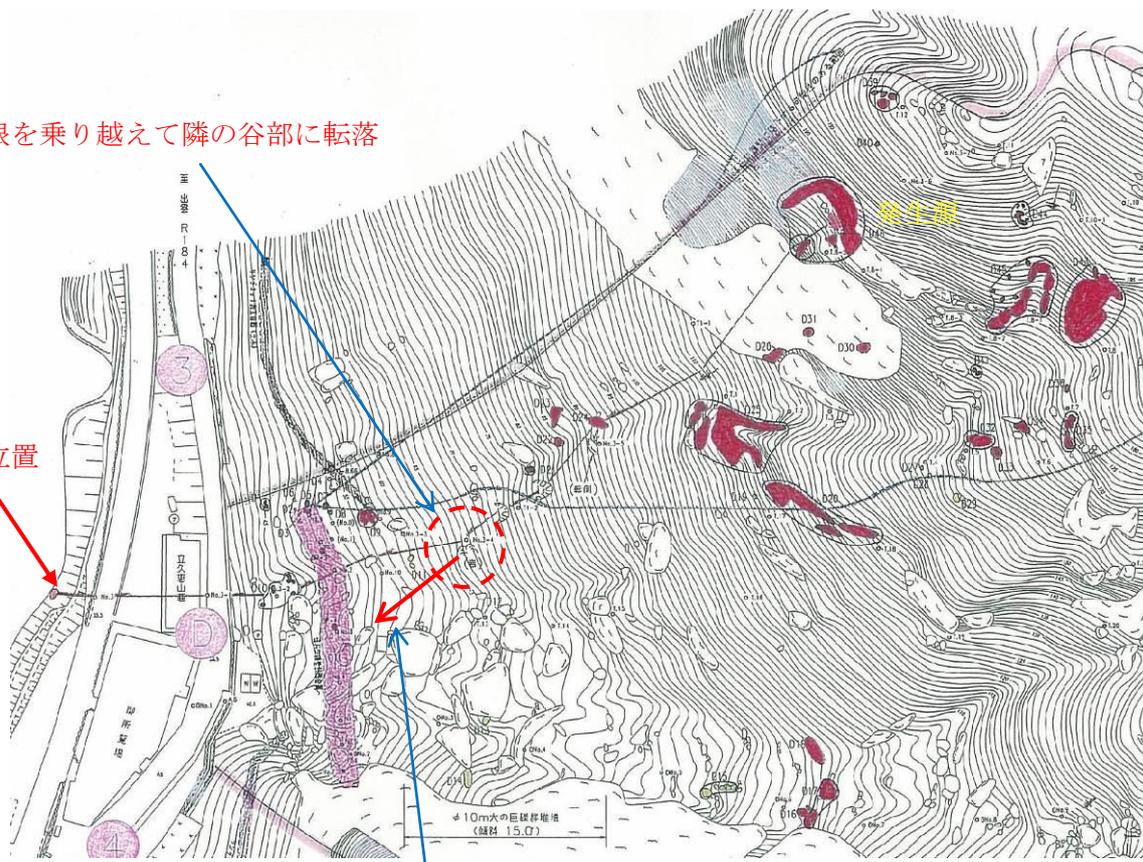


○落石の軌跡…最大傾斜方向に対して、左右 20~25° のブレを生じながら転落（跳躍巾 3~5m）。

“シミュレーション技術では、とても対応できない”と思われた

小尾根を乗り越えて隣の谷部に転落

停止位置



現地での最大傾斜方向（この方向に転落すべきであるのに……）



停止位置